

総務文教常任委員会記録

令和元年 10 月 10 日

【開催日】 令和元年10月10日

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前10時～午前10時32分

【出席委員】

委員長	河野 朋子	副委員長	伊場 勇
委員	奥 良秀	委員	笹木 慶之
委員	高松 秀樹	委員	長谷川 知司
委員	宮本 政志		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	小野 泰	副議長	矢田 松夫
----	------	-----	-------

【執行部出席者】

教育長	長谷川 裕	教育部長	尾山 邦彦
教育部次長兼教育総務課長	吉岡 忠司	学校教育課長	下瀬 昌巳
高千帆小学校長	三輪 孝行		

【事務局出席者】

事務局長	沼口 宏	議事係長	中村 潤之介
------	------	------	--------

【審査内容】

1 所管事務調査 松原分校入学者の募集停止について

午前10時 開会

【会議の概要】

- ・長谷川教育長から「9月の総務文教常任委員会において、委員から、「重要な案件については、委員会に十分な報告をしてもらいたい」という指摘があり、間もなく任期満了による委員の交代も考えられることから、松原分校の令和2年度からの赤崎小学校区以外の該当児童の小学部入学募集停止につい

て、現状を説明させていただきたい」との説明があった。その後、下瀬学校教育課長から、別添資料の説明があった。

【主な質疑】

長谷川知司委員 現在、赤崎小学校区以外から何名来られているか。また、それらの方が地元に行かれない主な理由は。

下瀬学校教育課長 小学部が10人、中学部が4人である。理由は、松原分校の良さを見たり聞いたりしながら、就学先を選ばれていることであろうと思う。

長谷川知司委員 今言われたのは、小野田地区だけか。山陽地区からは、来られていないのか。

下瀬学校教育課長 山陽地区は、小学部で2人希望されている方がいる。

奥良秀委員 資料の2経緯の⑫番、⑬番で、説明会に来られた方と来られなかった方の出欠は、小学校、中学校それぞれ何人か。

下瀬学校教育課長 昨年度、小学部が15人、中学部が7人である。

長谷川知司委員 このときに、保護者の方から出た意見で、反対あるいは賛成という意見があったのか。

三輪高千帆小学校長 「我が子がもし1人になったとしても、最後まで面倒見てもらえるのか」については、「たとえ在籍が1人になったとしても、松原分校は存続します」と、「市内のほかの学校でも古い校舎はあるんじゃないか。閉校対象は松原分校だけか」については、「古い校舎はほかにもある。現在の閉校対象は、松原分校だけです」と、「もし途中で、地元の支援学級とか宇部総合支援学校とかへの転校は可能ですか」については、「地元の特別支援学級については、転校できる。宇部総合支援学校については、県教委の範ちゅうになるため、県教委と協議をさせていただきます」と、「閉校へ向けて、どんどん児童生徒数が減少していくことが見込まれるが、文化祭とか運動会とかが縮小されてくるのか」については、「少子化については仕方がないが、人事配置とか教職員とか卒業生とかでしっかり盛り上げていきたい」と回答している。

笹木慶之委員 このまま分校にずっといたいという傾向があるのか、他の方法を選ぶようになるのか。それによって、分校の存続期間が随分違うので

はないか。

下瀬学校教育課長 このまま分校に残っていきたいという意向が多いと聞いている。

奥良秀委員 転校、移動を希望された方は希望どおりできるのか。資料の4には「判断します」とか「協議します」というような文言になっているが、行かない可能性もあるのか。

下瀬学校教育課長 就学指導委員会の委員の方の意見を聞くルールになっているので、その手続を踏みたい。その中で、自分が住んでいる校区の中学校とか小学校に戻りたいということであれば、そこまで問題になることはないかもしれないが、他校区の場合はいろいろ協議が必要で、保護者の意向との調整も必要になるかと思う。また、県立学校の場合は、所管が県教委になるため、保護者の意見そして市教委としての意見を内申として上げて、県教委と協議するということである。

奥良秀委員委員 ここがいいという家族の方が根強くいらっしゃると思うので、行き場がないような状況は絶対作ってはいけないと思う。いろいろ大変な家庭が多いと思うので、協力、援助をお願いしておく。

長谷川知司委員 経緯を見ると、去年の5月24日に教育委員会議で報告、了承、それから、議長、副議長に説明、また、委員長、副委員長に説明となっている。委員会での説明が今日になった理由は何か。

尾山教育部長 正副議長と正副委員長に対しては、松原分校を閉校の方向で保護者と話を始めたいので御理解を頂きたいという説明であった。具体的な、詳細に書いてあるようなことは、まだ、その時点では全くの白紙であった。本来であればこれ今年の2月20日に合意書が成立しているため、3月議会にでも御報告しなければならなかったが、こちらの落ち度で、その意識が足らなかった。

長谷川知司委員 昨年8月以降、いろんな話が入ってきた。私たちも責任のない話ではできないので、聞いておくということで済ませていた。今後は速やかに報告すべきと考える。

河野朋子委員長 赤崎の特別支援学級は、松原分校が閉校しないと設置できないのか。

長谷川教育長 県との話し合いが必要になる。原則としては、分校があるので、赤崎小学校、竜王中学校の特別支援学級、知的障害に関わる学級は設置されないということになる。したがって、分校がなくなった時点で、赤崎小、竜王中学校にそれぞれ知的学級が設置されるということになる。

笹木慶之委員 そうすると、赤崎校区外の者が学校に通って、在校生がいるが、赤崎校区の子供たちで赤崎小学校に入学したいということになったとき、学校があれば必然的には赤崎小学校区の人が松原分校が入ることになるので、いつまでたっても閉校できないのでは。

尾山教育部長 ゆくゆく最終的には、赤崎小学校区の子供だけの学校になった段階で、松原分校を閉校して、赤崎小本校の特別支援学級に設置し替えるということ。未来永劫、松原分校が存続するというわけではない。

河野朋子委員長 教室が、赤崎小学校の中に移動するのがいつぐらいになるのか。

尾山教育部長 あくまでも見込みであるが、現時点で考えているのは、もう松原分校の校舎は耐震補強が済んでいるが、50年を過ぎていることから、できるだけもう使用せず、赤崎小学校の校舎で空き教室が出ればそこへ設置したい。なければ増設を考えていくことになろうと思う。

午前10時32分 散会

令和元年（2019年）10月10日

総務文教常任委員長 河野朋子